



佐藤栄佐久氏
(郡山の自宅で)

語る！

特別寄稿

前福島県知事 佐藤栄佐久氏

県民
一人ひとりの
立場に立つ

もしかすると、『りい〜ど』
を読んでいらつしやる皆さん
は、ブログなど、あまりごら
んにならないかもしれませ
ね。

九月十三日のライブドアの
ブログに、「原発立地県の知事
は命がけだ。―二十人の識者
が見た『小沢事件の真実』の

七つの生活圏でまい進 東京一極集中、もつてのほか

私は常に「県民一人ひとり
の立場に立つて考え、決断す
る」を規範とし、県職員にも
それを求めました。

佐藤栄佐久インタビューから、
次の標的として特捜検事は間
違ひなく新潟県知事を狙って
いると警告する」という、セ
ンセーショナルな記事が報道
されました。
その中にフリーのジャーナ
リストが、「福島県の佐藤栄佐
久知事はプルサーマル計画に
反対していました。それが直
接の原因かはわかりませんが、
○円の収賄で逮捕起訴されま
した。(泉田知事は)第二の佐
藤さんのようになるなど感じ
たことはありませんか」と問い
かけ、泉田知事は「感じたこ
とはあります」と答えていま
す。

平成五年四月に開学した会
津大学は、会津藩以来の会津
の人たちの悲願といつていい、
夢の実現でした。私のテーマ
は二十一世紀の大学を創る、
です。

泉田知事は通産省の元官僚
ですが、県知事として直接県
民生活を守るという、認識の
重さを痛感されたのだと私は
思います。私自身がそうでし
た。
私は常に「県民一人ひとり
の立場に立つて考え、決断す
る」を規範とし、県職員にも
それを求めました。

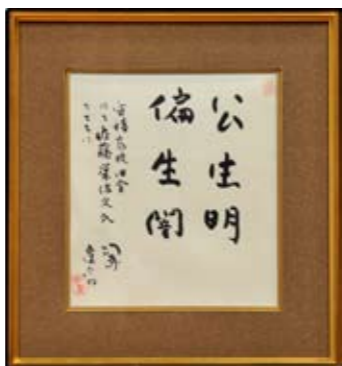
も書き切れません。
同十年四月は、福島医大に
看護学部を開設しました。そ
の記念講演で私は、「お医者さ
んが偉くて、看護師さんはそ
の補助をするという考え方は
ありません。二十一世紀は
『イコール・パートナー』とい
う考え方に立つて、お医者さ
んも看護師さんも、患者さん
の病気を治療するというこ
とでは、『イコール・パートナー』
でならなければならぬので
す」と、力説しました。
病気を治す、という点では
診察も治療も看護も同じよう
に大切だと私は考えます。そ
んな思いが、『イコール・パ
ートナー』という言葉になりま
した。

この中からは高度情報社会に
なるのだから、情報系の専門
大学にしよう、地域のニー
ズも一致しました。その過程
で国立大学の協力を仰ぎに
行った県職員が怒って帰って
きて、「こちらは二十一世紀の
大学を創る話なのに、彼らは
十八・十九世紀の大学しかイ
メージしていない」といつて
報告に来たので、その大学を
断らせました。
むりやり初代学長を引き受
けていただいた國井利泰先生
と話して、国際学会で世界か
ら教授を募集し、七割弱が外
国の先生となり、「一二年生の
うちに徹底して話す・論文を
書く英語教育を進めたこと。
開学の次の年「落第する学生
が多過ぎる」と文部省から指
摘されたこと、思い出はとて

就任直後の頃、町村議員と
の懇談会で「あなた方と県は
『イコール・パートナー』で
すから」と挨拶した時、後の出
納長で当時の課長補佐の金賀
英彦君が「いい言葉ですね」
と言ったのを覚えています。

同十年は、私の考え方を具
現化した施設がほかにも二つ
誕生しました。
一つは、七月に大玉村・県
民の森にできたオートキャン
プ場フォレストパークのオー
ブンです。国内広域交流の推
進も大切な目的ですが、この

施設の眼目は自然との共生に
あり、環境は未来からの信託
という考えに立つて、森を守
ること、景観を維持すること、
さらに希少野生生物を保護す
ること、を何とか貫こうと努
力しました。
ここから後年のエコロード



が生まれ、車をビュンビュン
飛ばすハイウェイに沿って、
もう一つ、野生のキツネやウ
サギが安全に渡れる道路を確
保するようになったのです。
県内全ての道路に併設できた
わけではありませんが、例え
ば、勿来の289号の山寄りには、
全国から称賛されモデルにさ
れている道路です。確か、西
表島なども指導しましたね。
二つ目は、郡山市の「ピッ
グパレットふくしま」です。
国際化社会、つまり地球時
代に入った今、議員時代に研
究していたニューヨークやパ
リのコンベンションシティー
づくりをモデルに、交流、物
流をテーマに福島県
ならではのアイデア
を發揮し、一大交流
拠点を創ろう、それ
がビッグパレットに
なりました。

までの予約とは行きませんで
したが、営業に熱心に取り組
み、県の施設としては高い利
用実績を示しているようです。
原発事故までは予想しませ
んでしたが、あの施設がなけ
れば川内の早い帰村はなかつ
たかもしれせん。
いわき市の事例では、同
十二年のアクアマリンふくし
まのオープンです(この件は、
改めて十二月号で取り上げて
みたいと思います)。

地域が個性、文化發揮

しかし、他県の事
例などをみると、官
営のこうした施設は
とかく赤字の垂れ流
しになりやすいた
め、厳命しました。
あくまでも利用者
の立場に立つて運営
すること。お役所の
都合やルールで運営
しないこと。ニュー
ヨーク並みに五年先

私は民主主義の根幹は複数
主義にあると考えています。
東京一極集中などもつてのほ
かで、^{おおの}各々の地域が各々の個
性や文化を發揮して輝きをは
なっていくことが、幸せの基
盤だと思っています。
福島県でいえば、相双・い
わき、県北、県中、県南、会
津と奥会津……。気候・風土
や歴史文化の異なる地域を「七
つの生活圏」として個性あふ
れる地域づくりを進めてゆく。
それが私の県政の要諦であり、
公共施設等は七つの生活圏へ
のバランスのとれた配置を第
一に取り組んできました。
同十三年一月、二本松市に
県男女共生センターを設立し
たのもそうした考えからです。

二十一世紀は女性の時代で
あり、女性が活躍できる社会
を実現することは国際社会の
ニーズでありました。
ヨーロッパの共同参画の状
況を視察した直後、いわきで
アジア諸国の政府の女性幹部
の皆さんに欧州の状況を話し
ましたが、少しはアジアの男
女共生に寄与できたかと自負
しています。
激しい抵抗の嵐の中で私は
全ての県立高校を男女共学に
した県知事ですから、改めて
男女共同参画など議論するま
でもないと思っっています。

当時の政権からも、いろいろ
いじめられました。
偶々ですが、建設予定地か
ら見える霞ヶ城の一角に、赤
松良子さんと共同代表で日本
の男女共生運動を展開してい
た下村満子さんの家が見えま
す。この人こそ、国際的視点
で館長を担える人でありませ
う。そう思い、口説き落としてお
願ひしたのでした。

|| 続く

*題字は、石川進さん(本誌「私の博物誌」執筆)



会津大学開学一周年記念講演でおいでになった作家の司馬遼太郎先生と筆者。色紙(右写真)もいただきました。

ヨーク並みに五年先

著者プロフィール 佐藤 栄佐久 (さとう・えいさく)

1939(昭和14)年6月24日生まれ。福島県郡山出身。県立安積高校、東京大学法学部卒。青年会議所活動などを経て83年の第13回参議院選挙に自民党公認で出馬、当選。88年、参議院議員を辞職して同県知事選に出馬、以後、5期連続当選。
知事在職中は、教育、環境問題に尽力する一方、東京一極集中、道州制などについて否定、さらに、政府、電力会社が進めるプルサーマル計画の導入についても反対を唱えるなど、“戦う知事”として県民の人気を集めた。ところが、県発注のダム工事に伴う「汚職事件」に関与したとされる実弟の逮捕によって、県政を混乱させた責任をとり、2006年9月、5期目の任期途中で辞職。その後、自身も逮捕される。12年10月、最高裁は弁護側、検察側双方の上告を棄却、懲役2年・執行猶予4年の最高裁判決が確定した。

☆
*高裁の判決は、「有罪」とする前提がすべて崩れているにもかかわらず、「無形のわいろ」や「換金の利益」といった従来の法の概念にはない不思議な理論と論法で「有罪」とした。この結果、「罪自体が不明」とし、「冤罪」を指摘する声も大きい。

著書に、『知事抹殺一つくられた福島県汚職事件』などがある。現在は、全国各地で国の体制・体質、原発問題などについて講演活動を展開中。